

これまでの薬物依存症地域支援体制推進部会における「女性への支援」に関する意見等

※（ ）は、意見等のあった部会の年度と回

現状・背景等

- 女性は子育ての最中の人もあり、本人の回復と子どもたちの成長をどうサポートしていくかを考えなくてはならない。日常生活の技術が身についていない場合にはその面のサポートも必要。(H30①)
- 薬物依存症の女性で子どもがいる場合は、親として果たすべき役割を本人も教わっていない場合があり、子育てに困惑して、再使用につながる場合がある。(H30②)
- 親機能が果たせないのは、自分も子どものとき十分愛された体験、育てられた体験を持たずに親になってしまっている場合がある。アメリカには依存からの回復とともに親機能の訓練が行える施設があり、日本でもそのような施設や機能が必要ではないか。(H30②)
- 女性は刑務所出所後に回復施設につながることが少ない。(R1①)
- 薬物依存症で重複障がいといえ、男性よりも女性の方が重篤で複雑。親や夫からの虐待を経験して、摂食障害や境界性パーソナリティ障害を併発される方がいる。(R2①)

取組み等

- 保護観察所の中で女性のミーティングを開いているが、難しい話をするのではなく、明るく元気にその場に居ることを重視している。(R1①)
- 精神保健福祉センターのプログラムにおいて、女性のための交流会を月1回開催している。(R1②)
- 医療機関の中で、少人数ながら参加者が「女子会」を作っている。メンバーもスタッフも女性で構成されており和やかな雰囲気です活動している。(R2①)